

平成 21 年 10 月 10 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 21 年 第 9 回講話

恒例の質問

まず恒例の質問を致します。

昨日一日、嘘をつかなかった方、どれくらいおられますか？

(・・・沢山手が挙がる)

これはもう、問題なしですね。嘘をつかないでいると、清々しくさっぱりしていると思います。先日、明治神宮に奉納吟詠に参りました。吟詠で伺うと、普通では入れない奥殿まで入る事が出来ますので、身が引き締まる思いがしました。その時に、嘘をついていると、何となく心咎めるものがあると感じます。嘘をつかないと、胸を張って行くことが出来ます。

昨日夜寝る時に、良い日だったなと思えた方は手を挙げて下さい。

(・・・沢山手が挙がる)

眠る時に、今日は良い日だったと思って眠るのと、嫌な一日だったと思って眠るのでは、やはり眠り方に差があるようです。もし、良い日でなかったという場合は、私がしているのは、食べたものを思い出して「あれが美味しかったから、今日は良かったな・・・」と無理矢理結びつけて、良い日だったなと思って眠るようにしています。

昨日一日、有難うと言ひ、人さまから有難うと言われた方は手を挙げて下さい。

(・・・一人手が挙がる)

更に付け加えてお聞きします。

新鮮な体験、新鮮な感動を昨日一日で味わった方、どれくらいおられますか。

(・・・一人手が挙がる)

私は今朝ここに入ってきた時に、司会が変わって、吉良さんが座っておられましたので、はっと感動致しました。また、季刊誌の最新号に、北関東フォーラムの代表幹事の塚越さんが寄稿しておられて、奥様の事を書かれていましたが、これも新鮮な感動でした。

今日の論語

素読は、できればその場面を思い浮かべて戴くとよろしい。それなりに浮かんでくればしめたものです。そうすると、リズムが出てきます。本日の論語は八佾第三 17～21章です。

しこう こくさく きよう さ ほっ しいわ し なんじ そ よう おし
子貢 告朔の餼羊を去らんと欲す。子曰く、賜や、爾は其の羊を愛む。
われ そ れい おし
我は其の礼を愛む。

子貢が登用された時に、告朔といって、毎月朔日（ついたち）に魯の宗廟にいけにえの羊を供える儀式をやめようとしたわけです。それに対して孔子が、「お前は、いけにえの羊を愛しんでやめようとするが、とんでもないことだ。私は伝統を伝える行事をやめてしまう事を悲しむのだ」と言っています。

論語は、日常生活に照らし合わせて読んで戴きたいとお話しています。

この文章を読んで浮かんだのは、インド洋での海上自衛隊の給油問題です。民主党になって油の補給を途中でやめるとなった時に、「告朔の餼羊を去らんと欲す」で、給油だけをやめたように見えません。国際社会へ参加する事をやめたというように感じました。

又、会社で考えますと、先日、巨大モールのお客様から、社員が大入り袋を貰って来ました。関係者全員に配ったらしいのですが、かなりの人数ですから、相当な金額になると思います。たくさんのお客様に来て戴いて有難いという気持ちで、創業者が関係者皆に分けたのだと思いますが、だんだん金額が膨らんでくると、もったいないからと思ってやめてしまえばそれまでです。最初の大入り袋に仮に1万円だったとすると、だんだん金額が下がって、1000円とか100円になったとしても、気持ちは残していく。中身の高ではなく、そういう伝統的なものがその会社を支えていくようにも思えます。

日常生活とか社会の状況を、こういうところからご覧になると良いと思います。

しいわ きみ つか れい つく ひともつ へつら な
子曰く、君に事えて礼を尽せば、人以て諂うと為すなり。

会社の社員の中に、朝早く入社して会社の中や周りを掃除する人がいました。今もおります。私は常々、社員にゴミを拾うように言っています。ゴミをひとつ拾えば、その人の心の中のゴミも一つ消えると思って言っているのですが、やはりその人に対して、「あの人は社長に良く思われたくて、ゴミを拾っているのだ」と陰口をする人がいます。

又、朝方、道場で稽古をしている時に、窓が開いていますから、社員の人が通りながら「おはようございます」と挨拶をします。それを見ていますと、面白いことに千差万別です。歩きながら「おうっす」とする人と、きちんと立って「おはようございます」とお辞儀をする人では、与える印象が全然違います。きちんとした礼儀を尽くして「おはようございます」と言って通る人は、仕事もきちんとしているようです。ただ、仕事をきちんとしていないで、挨拶だけきちんとするような人間については、おべっかを使って諂っていると周りは言うようです。自分はどうか、氣をつけて戴くとよろしいでしょう。

ていこうと きみ しん つか しん きみ つか これ い か
定公問う。君 臣を使い、臣 君に事うること、之を如何にせんと。
こうしこた いわ きみ しん つか れい もつ しん きみ つか ちゅう もつ
孔子対えて曰く、君 臣を使うに礼を以てし、臣 君に事うるに忠を以てすと。

魯国の君主・定公が孔子に聞きました。「主君が家臣を使い、家臣が君子に仕える。100%実力を発揮させるにはどうすれば良いのですか」

孔子が答えました。「主君が家臣を使うには、粗略に扱わないで礼儀をもって扱うことだ。家臣が主君に仕えるには、真心をもって仕えるのが良い。」

この文章は心にぐさっと来る人も多いと思います。例えば、上司が部下に何かを命じる時も、礼の定め、人間として定められている道德・ルールに基づいて仕事を頼んでいるかどうかが肝心です。そうであれば、君主に仕えるに真心をもってする。

ひと頃、何かを追求されて「秘書が勝手に・・・」という科白がよく聞かれましたね。鳩山さんも献金問題を指摘された時に、たしかそんな言葉を言っていました。又、政治家の秘書の人達が自殺をして、「先生」を守ったという事例が幾つもありました。このあたりは怖いところだと思います。政治家も官界も経済界も、上の地位に行けば行くほど、こういう論語なり古典をじっくり読み込む必要があると思います。じっくり読む事で、それが身体の中に入って血肉になり、自分自身が日頃行動する時の判断基準になると思います。

何か行動を起こす時に、何も判断基準がなくて、自分の思ったまま我流でやっていたら、とんでもないことになるだろうとこの文章を読んで感じました。

しいわ かんじょ たの いん かな やぶ
子曰く、関雎は楽しめども淫せず、哀しめども傷らず。

私たちは素晴らしい音楽を聴いたり、素晴らしい映画を見たりする。孔子は、音楽通でもあり、ここでは「関雎」という曲は、楽しみながら楽しみに溺れず、悲しむけれども悲

しさにくじけない曲だと言っています。

「関雎」とは、詩経の中の詩の一篇ですが、色々な使い方が出来ると思います。例えば自分の趣味や道楽、自分の好きなことを当てはめて考えればよろしいでしょう。

民主党で申します。民主党は今度、権限を持ちました。その権限を楽しんで、色々とおうとしていますし、実際使っています。その際、権限を振り回すのが楽しくて仕方がないというような使い方をしたなら、権限の魔力に溺れ死んでしまうと思います。

あいらう しゃ さいが と さいが こた いわ かこうし しょう もつ いんひと はく もつ
哀公 社を宰我に問う。宰我 対えて曰く、夏后氏は 松 を以てし、殷人は柏を以て
し、周人は栗を以てす。民をして戦栗せしむと。子 之を聞きて曰く、成事は説か
ず。遂事は諫めず。既往は咎めずと。

「社」とは、樹木を神木とする土地の神様で、豊作を祈願するところです。

哀公が土地神について宰我に聞きました。

宰我が、「夏は松を神木にし、殷は柏を神木にし、周は栗を神木にした。(戦慄という言葉のように) 国民を言うことをきかせるために、周は栗にしたのだ」と答えました。

孔子がそれを聞いて言いました。「終わった事件は論じてはならない。決着したことを諫めたりしないし、過去のことについての責任を問うものではない。」

宰我が哀公に対して、自分で実権を握るように力づくでやったらどうだと嫉けたのが目に見えてわかるから、宰我に対して孔子が、あまり先走りして色々な事を言わない方がよいと諫めています。

覆水盆に返らずと言います。組織の上にいる人が何かを言うと、それは元に戻らない。そういう事はよくあります。

基本哲学 足るを知る

中斎塾フォーラムでは、「足るを知る」という考え方を身に付けて戴くことを最大の眼目としています。

前回のフォーラムで、ブータンについて少しお話しました。ブータンの場合は、輪廻転生を信じているし、仏教は身近なものになっています。結婚相手を選ぶ時に、相手の家にきちんとした大きな仏壇があれば、娘を嫁がせてもよいというのが常識のようでした。実

際に行ってみると、「足るを知る」ということが現実にブータンという国の中では行なわれていると感じました。あれもこれも欲しいというものではない。食べ物は質素だけれども、お腹がふくれたらそれで満足、という国柄だと感じました。ただ、テレビが入っていましたから、あれも欲しい・これも欲しいと欲望がうずいて、どんどん物質文明に汚染されて来ているように感じます。しかしGNH、国民が皆、幸福感に包まれて暮らす国が一番よい国であるという考え方を国王が打ち出していますから、これは素晴らしいことだと思います。

家族が、“うちは幸せだ”という幸福感に包まれて日々過ごせる家庭であれば、素晴らしいと思いますし、“今日は幸せな一日だった”という幸福感に包まれて生きてゆければ素晴らしいと思います。「足るを知る」を、実感で持てると良い人生が過ごせると思います。私は、基本哲学の「足るを知る」を身につければ良いと思つつ日々過ごしています。

心に残る言葉

今日ご紹介する本は、杉山巖海さんの『名著に学ぶ 心の基礎力』です。

「内に^{かえり}省^{やま}みて疾しからずんば、それ何を^{うれ}か憂え、何を^{おそ}か懼れん（顔淵第十二）」

内に省みること自体、今の世の中の人にはしていません。自分を省みて、何となく咎めることがなければ、憂えることも懼れることもありません。

テーマ 総合的直観力を身につける

総合的直観力という言葉が言われたのは、木内信胤先生です。木内先生は食べものに関して、「誰が作ったか分からないようなものを、食べられるものかね」と言っておられました。最近、スーパーに行っても生産者の顔写真が貼ってある野菜などが増えています。木内先生がおっしゃったのは、写真で顔が分かるのではなく、現実に分かっている人が作っているものなら安心して美味しく食べられるけれども、海の彼方から、誰が作ったのか分からない、しかも買い叩いて、船か何かで積んできたものを食べているというのは、あまり嬉しくないということでこういう話をされました。

総合的直観力を考える時に、私は以前から「古いもの・大きなもの・重たいものはダメ」と言っています。これからダメになるという意味です。古いもの、つまり老舗はこれから

どんどん潰れると思いますし、大きいもの・重たいものについては、常にクエスチョンマークをつける必要があると思います。

例えば、GMであるとかトヨタといった大きくて重たい会社は、ダメになると思います。これは総合的直観力です。総合的直観力とは、まず最初に結論が出ます。＜トヨタはダメになる＞＜GMはダメになる＞というように、結論が出て、どうしてそう考えたのかという理屈を後から考えてゆく。その理屈を、時流が後から追いかけてきます。自分の言ったことに対して世の中が後追いをしてくるというものであれば、大体、実行の段階に入ってくるし現実のものになってゆくと考えます。

トヨタやGMを例に出しましたから、自動車産業が今後どうなるかを考えますと、油を燃料に走らせるという段階はもう終わりでしょう。今の流れでいけば、電気を使って走らせることになるでしょう。そうなると今の設備は必要ありません。今の車を構成している3万点以上の部品メーカーは仕事がなくなります。だったら今の部品メーカーは、電気で動く車の部品に切り替えなければ生き残っていけない。そういうふうにならなければいけないはずですし、総合的直観力で順序良く考えていけば、おのずと変わるようになると思います。

私は今、新型インフルエンザ対策として、玄関の外で手が洗えたり、ウィルスを防御するためのコートをかけられるように、自宅を改装する工事を依頼しました。日本の新型インフルエンザの常識が、世界と著しく変わってきたという部分があります。日本の場合は「新型インフルエンザ」という呼び名で広がっていますが、世界は、「豚インフルエンザ」と呼んでいます。昔、スペイン風邪と言われたものは豚の新型インフルエンザです。

前回、大野参与がフォーラムに来られて話をしてくれました。インドネシアで120頭のインフルエンザで死亡した豚が処分され、その豚には鳥の新型インフルエンザウィルスが見つかったそうです。更に、豚にインフルエンザをうつしたのは人間だったそうです。又、エジプトで2人の新型インフルエンザによる死亡者を調べた所、馬の新型インフルエンザが見つかったそうです。

だんだん新型インフルエンザの本番が近づいたと思っています。当初の予想でいけば、鳥の新型インフルエンザは、今年の暮れから来年早々にかけて発生し広がる。当初は、日本人は64万人が死ぬだろうと発表していたけれども、その時点でさえ、アメリカやオーストラリアの研究機関では、200万から240万人の日本人が死亡するだろうと予測しています。大野参与の話では、現時点ではもう、マスクの原材料がなくなってしまったそうです。ですから、抗菌と書いてあるマスクがどこかで売っていたら、高くても買っておいた

方が良いとアドバイスされていました。

一番効果があるのは、手洗いとうがいだそうです。尚且つ、それが家に入る前にできるようにしておかなければいけません。現実にもそういう設備を作ってしまうと、嫌でもするようになります。そう思って今、進めています。

私は来年、再来年と景気が悪くなると申しました。再来年の後半には、断崖絶壁を落ちると思っています。そうすると、その先に起こるのは、電気が使えなくなり、油もなくなるでしょうから、本当に自給自足の生活に入ると思います。ですからこの次に私がする事は、来年は電気を自給自足しなければいけないと思いますし、食べものも出来る限り自給自足をしなければならないだろうと思っています。このあたりを意識の中に入れて、再来年以降に対応した方が良いと思います。

ちなみに私がこういう予測をしていましたが、森永卓郎さんという評論家も、「インフレとデフレが共存している」という言い方をしていました。それから堺屋太一さんが「再来年の後半に、経済的な大変動がある」と広告をうって、新しい本を売り出しました。だんだん似たようなことを考え出したと思いました。

こういうものは全部、総合的直観力でピンときたものを、検証する意味で色々調べていくと、後から後から理屈が追いかけてくると実感しています。総合的直観力は、最初に「私はこう思う」という結論が出ますから、その後ずっと寝かしておけば、半年、1年経つうちに、それがだんだん検証されてくる。そのように総合的直観力を身につけて戴ければよろしいでしょう。

氣になっていること

今、私が氣になっていることはボケです。木内信胤先生は、「自分が自分でなくなる事が怖い」と言っておられました。ボケるのが怖いと言っておられて、亡くなったのを覚えています。昨夜テレビで、長門裕之さんが奥様の南田洋子さんがボケてきた時のきっかけを話していて、印象に残りました。南田さんが「お化粧をするのが面倒になった」と言ったそうです。そのあたりがボケの始まりだったのではないかと話していました。

日頃の言動と著しく違う、その人らしくない言動が始まった時には、年配の方の場合、ちょっと疑わなければいけないと感じました。

時事問題

総合的直観力で民主党をみると、私は悪いと見ました。しかし良い所もあると思いましたが。総合的直観力で申しますと、これは目先のものと長期のものに分けて判断しなければいけません。目先では、良いことが多い。長期で見ると、悪いことが多いと思います。

目先のものでは、次から次に新しいことを打ち出していますから、ミスもあるけれども良いこともあります。しかし今回感心したのは、要求大臣から査定大臣へ変わったところです。非常に新鮮な呼び名を出したと感じました。又、外国に向けては、環境国連気候変動サミットの開会式で、25%の温室効果ガスの削減目標を出しました。中身は別として、非常に注目を浴びて、皆が気にし始めましたから、そういう点では良いと思います。

ただ4年間の中で、良いことをしようと思って進めようとするほど、落とし穴にはまりやすいと感じます。実際に何か大きな落とし穴にはまって、日本経済・日本の進む方向を著しく曲げてしまう可能性が大きい。

目先で良いことはたくさん起きるけれども、長期では、とんでもない落とし穴に落ちてゆく。したがって日本国は塗炭の苦しみを味わうであろうと思っています。

目先のもので、いくつか面白いものがありました。

長妻さんの厚生労働大臣就任です。長妻さんの行動を見ていて感じるのは、民主党の中で、獵官運動がかなり盛んだと思います。「長妻さんはゴネ得で厚生労働大臣になった」という声はかなり出ています。最初、厚生労働大臣には仙谷さんが決まっていた、長妻さんが行政刷新のポストだと鳩山さんは考えていたようです。仙谷さんの了解を取った後で、長妻さんに伝えたところ、「私は厚生労働以外、やる気はない。副大臣でもよいから、やらせて欲しい」と言われたので、鳩山さんは仙谷さんに頼んで、ポストを交換したわけです。裏側の話ですと、長妻さんは年金しか知らないのだから、厚生労働行政全般は分からないはずだということで、足を引っ張る話が吹き上がったけれども、大臣に就任しました。長妻さんが上手だったと思うのは、引継ぎの際、舛添さんのプロジェクトチームをそっくりそのまま貰った。ですから、自民党から民主党へスムーズな移譲がなされている厚生労働行政は、非常に注目に値すると思っています。

民主党の中で、そういった足の引っ張り合いだとか、ゴネ得だという話が出ているというのも、やはり注目する所です。

亀井さんがモラトリアム法案については、多分、骨抜き骨抜きで実行されるだろうと思

っています。今朝の新聞を見ると、「貸し渋り・貸し剥し法案の中に、モラトリアムを取り込んだ」とありました。ただ怖いのは、元利ともに猶予となれば大変なことになります。日本国でデフォルトの芽が生まれたという事になります。諸外国から見ると、日本は踏み倒しが容認される国であるということで、日本にお金など出せるはずがないという話に繋がってきます。ですからとても怖いと思っています。それが今、ベールを被ったまま実行されそうな気がするので、もうひと波乱、ふた波乱あるだろうと思っています。

元々は、鳩山さんと亀井さんとの間では、元利猶予ではなく元金のみ猶予するという話が出来上がっていたので、亀井さんが「俺の首が切れるか」と嘯いたのも、根拠があったことだったわけです。

菅さんの動きも気にかかります。少しも目立ちません。大局で見て、菅さんの立場で考えると、菅さんは副総理ですから、鳩山さんがいなくなってしまうえば自分が総理大臣になるわけです。鳩山さんがとんでもない失態を犯して総理大臣を降りたなら、自動的に総理大臣が転がり込んできます。ですから余計な発言や行動をして、ミスをしないようにしているのでしょう。何も言わないし、何もしないで、総理大臣の椅子が転がり落ちてくるのを待っているような心境なのだろうと思います。誰が何を突いても、以前のように派手な動きをやるはずがない。行動には慎重になると思います。何かを打ち上げるポストにいても、誰かに打ち上げさせて、自分は後ろにいるように見えます。

今回の民主党の大臣達の動きで、人間の心の動きが、透けて見えると感じます。

前回は申しましたが、今回の議員達は当選して2日間の在籍にもかかわらず、1ヶ月分の給料を貰っています。しかも、返すと言った人は誰一人としていません。2日間の在籍で231万円のお給料を平気で受け取って、知らんぷりしている。マスコミもそれを追求しない。私は腹が立って、この国はどうなっているのかと思いました。自分で姿勢を正して返納すれば、その人の印象も変わるし、その人の政党も応援したくなります。

これが「利によりて行なえば、怨み多し」という私の好きな言葉に直結をします。民間の常識と、政治家・官僚の常識とでは、凄まじい違いがあるのだということが、この問題からも透けて見えるような感じがしました。

本日の講話は以上です。有難うございました。